

# 高学年 3 組 外国語活動学習指導案

授業日 平成28年 7 月 5 日 (火) 2 校時  
授業者 附属新潟小学校 教諭 茂木 智弘  
会場 高学年 3 組

## 1 単元名 Let's chant

## 2 本単元の価値

次期学習指導要領に向けた英語教育の在り方に関する有識者会議(H27.9.16)では、小学校高学年における英語教育のイメージとして次のような目標・内容・ポイントを示している。(読むこと・書くことは除く)

### 1 目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

<ポイント> ・身近で簡単なこと ・コミュニケーション能力の基礎

(1) 身近で簡単なことについて話される初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。

(2) 身近で簡単なことについて、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。

<ポイント> ・身近で簡単なこと ・初歩的な英語

### 2 内容

英語を理解し、英語で表現する能力を養うため、次の言語活動を 2 学年間を通して行わせる。

○「聞く」「話す」について

・基本的な英語の音声に慣れ、身の回りの語彙や場面の中での表現を聞き取り、状況から判断して適切に応じること。自分の考えや気持ちなどを英語やジェスチャーを使って、聞き手がわかるように話すこと。

○言語材料の取扱い

・外国語活動で扱った、表現等を繰り返し扱う。その際、外国語活動と異なる場面で活用するなど、スパイラルに何度も扱うことに留意する。

<ポイント> ・場面や状況に依拠して聞くこと、話すこと

以上のことから、次期学習指導要領の小学校高学年外国語教育では、次の 3 点が大切である。

- ① 身近で簡単なコミュニケーションを定型表現で図る。
- ② 場面・状況・相手の意図や気持ちに応じて定型表現を使う。
- ③ 学んだ定型表現を繰り返し使う。

本単元は、現行教材「Hi, friends」を基に、次期学習指導要領の目標と内容に沿った授業を展開するために構成したオリジナル単元である。

子どもは、本単元までに基本的なあいさつ[Hello! Hi! How are you?], 自己紹介[What's your name?]などの定型表現を身に付けている。また、同世代のアメリカ人との交流で一緒に折り紙を折る経験をしている。その時子どもは、必要な英語さえ知っていれば、互いに理解し合えると考えていた。しかし、実際は想定外の質問や学んだ英語を上手く使えずに戸惑う姿が見られた。この経験から子どもは、外国人とのコミュニケーションにおいては、単純に英語を覚えればよいわけではないことを感じている。

本単元では、自分たちで考えたオリジナルチャンツ (Ori チャン) を ALT に教える授業を展開する。チャンツは、身体表現を多分に含む活動である。つまり、既存の言葉 (英語) が少ない子どもたちがコミュニケーションを図るにあたりジェスチャーや表情などが有効に働く活動である。そのため、子どもが外国人とコミュニケーションを図る導入期には、適している。しかし、非言語でコミュニケーションを図りやすい身体表現は、英語を必要としない恐れがある。その点チャンツは、身体表現を主としながらも活動そのものにターゲットとなる定型表現が含まれている。子どもは必然的に繰り返し定型表現を使うことになり、また ALT に教えるという活動から言語 (英語) どのように非言語と組み合わせながらコミュニケーションを図ったらよいのか体験的に学ぶことができる。これが本単元の価値である。

### 3 本単元で目指す姿

**Oriチャンを改善して、動きにかかわる英語や人に何かを教えるための英語を用いてOriチャンをALTに教えることができる。**

※ 理解し合うとは、単元の目標が伝えることであれば、自分の伝えたいことが伝わった姿であり、相手のことを知る、聞く単元であれば、聞きたいことを聞いた姿である。

※動きにかかわる英語

Verb (動詞)	Turn/Go/Jump/Copy/Raise など
Noun (名詞)	Up/Down/Right/Left/Back/Foward など
Adjective (形容詞)	Slow/Quickly など

※人に何かを教えるための英語

Verb (動詞)	Repet/Look/Play/Say/Do/Have/Mistake/Understand/Know など
Noun (名詞)	Same/Good など (ほめ言葉) /Question/Ok?/This/That/など
Adjective (形容詞)	Slow/Quickly など
Preposition (前置詞)	Like/At など

### 4 本単元で育む資質・能力

単元カード参照

### 5 指導計画 全6時間 (18Q)

単元カード参照

### 6 指導の構想

子どもは、単元導入において、Hi, friends2 Lesson4 [Turn right.]を使って動きにかかわる英語に慣れ親しんでいる。そこで、Activity の場面で「習ったことを使ってALTに何か伝えよう！」と呼び掛けた。すると、子どもは体育で学習していた「言うこと一緒」は、Lesson4 で習った英語を使ってできると考えた。そこで、「言うこと一緒」の English バージョンに必要な英語と、ALTに伝えるために必要な英語を考えさせ、実際にALTに伝えさせた。しかし、実際の場面では上手く伝わらない場面に遭遇し、子どもは①言語にかかわるもの(英語そのもの・使い方)、②Chantsの内容にかかわるもの、③チームワークにかかわるものの3点が原因であることに気付いた。そこで、その場で改善策を考えさせ、再度ALTに教えたところ大まかではあるが伝わった。

「言うこと一緒」Englishバージョンが伝わると子どもは、伝えている途中に楽しくなって新しくアレンジしていく姿が見られた。そこで、「オリジナル Chants をつくってみないか」と提案した。すると、子どもは思い思いにオリジナル Chants (以下 Ori チャン) を考えるようになり、今度は、Ori チャンをALTに伝えようとするようになった。

今までの学習の流れから子どもは、次の状態であると考え。①動きにかかわる英語、人に何かを教えるための英語に慣れ親しんでいる。②ALTに教える時の注意する点(言語にかかわるもの・Chantsの内容にかかわるもの・チームにかかわるもの)を知っている。③「ALTにOriチャンを伝える！」という目的を明確にもっている。このような子ども(C0)に次の働き掛けをする。

#### 働き掛け1

**『Oriチャン』をALTに教えさせ、英語を使って目的が達成できたか問い、その要因を全体で考えさせる。**

※本単元では既習経験が少ないことから、年間指導前半＝経験させ、英語を使って目的達成できたかを問う。

活動内容をALTに伝えさせ、活動内容及び伝達方法に問いをもたせるための働き掛けである。

ここで言う活動内容は、Oriチャンの内容であり、伝達方法は、言語運用能力(英語能力・社会言語能力・談話能力・ストラテジー能力)にかかわる問いである。子どもは、自分たちの考えたOriチャンをALTに教えることを目的とする。そして、実践させる。子どもは、既習の経験を基に、自分のできることで、分かることで教える。このような子どもに問いを促す働き掛けとして、自分たちや友達の実践を振り返らせ、「ALTにOriチャンが伝えられたか。またそれは何故か」と問う。子どもは、自分たちのできたこととALTの反応から「やり方は理解してやっていたけど、全然リズムに乗っていない。英語は伝わったと思うけど、Oriチャンが難しすぎてチャンツができなかった。説明がそれぞれバラバラになって、上手く伝わっていない」などと問いをもつ。

### 働き掛け2

コミュニケーションシートを基に、活動内容と伝え方に分けて改善策を考えさせ、自分たちの活動を見つめ直させる。

改善策を見い出させ、次への活動の見通しをもたせるための働き掛けである。

教師は、「上手くいかなかった点を改善するために何かよい案はないか」と全体に問う。すると子どもは、コミュニケーションシートを基に、活動内容と伝え方の両面から改善策を考えるようになる。教師は、活動内容と伝え方、問題点と改善点を整理・分類しながら板書し、次への活動の準備をコミュニケーションシートと板書を基に、班でさせる。子どもは、活動内容を視点に**資質・能力 体③(ねらいに応じて、動きを工夫する力)**、**音③(リズムと音(言葉)合わせるを工夫する力)**、**特③(ねらいを達成するための方法や役割を共通に理解し、協力する力)**を発揮させながら、活動内容を改善する。また、改善された内容を基にどのように伝えるかという視点から伝え方を考える。

教師は、「これで次の活動ができそうか」と問う。子どもは、学級全体で共有された問題点と改善策から直面している自分たちの問題点に対する具体的な改善策、伝え方を見出し、次への活動の見通しをもつようになる。

### 働き掛け3

目的達成のために班で再度活動をさせる。

妥当な改善策を実行し、目的を達成させるための働き掛けである。

子どもは、改善策を見出し、「今度はALTにしっかり教えられる」と見通しをもっている状態である。このような子どもに実際の場面でどのようにやりとりすれば、目的達成するやりとりになるのかを班で体験させる。班でのやりとりは、複数の質問や答えを英語で聞き取ったり、文脈の中で自分の聞きたいこと・伝えたいことを伝えたりする必要があるため、より自然なやりとりが実現する。子どもは、**資質・能力 外・国③(場面・状況・相手の意図や気持ちに応じて言葉「英語」でやりとりする力)**を発揮しながら、改善策を実行し、ALTにOriチャンを教えられるようになる。

### 働き掛け4

コミュニケーションシートを基に、活動結果とその様子についての感想を問う。

目的の達成と、その要因を自覚させるための働き掛けである。

OriチャンをALTに教えた子どもに、「活動をしてみてどうだったか」を問う。すると子どもは、目標が達成できたかについての感想を述べるようになる。教師は、子どもの発言を受けて、「何故達成できた(またはできなかった)か」について問う。子どもは、コミュニケーションシートと活動の具体的な様子から「リズムに合うように言葉を改善したから」、「Do you understand?という英語を加えたから」などと、改善策と伝え方の視点からその要因を話すようになる。この姿が**活動内容を改善し、英語を用いてコミュニケーションを図る中で、理解し合う姿(Cn)**である。

## 7 本時の構想 (本時 6/6時間)

### (1) ねらい

Oriチャンを改善して、動きにかかわる英語や人に何かを教えるための英語を用いてOriチャンをALTに教えることができる。

※動きにかかわる英語

Verb (動詞)	Turn/Go/Jump/Copy など
Noun (名詞)	Up/Down/Right/Left/Back/Foward など
Adjective (形容詞)	Slow/Quickly など

※人に何かを教えるための英語

Verb (動詞)	Repet/Look/Play/Say/Do/Have/Mistake/Understand/Know など
Noun (名詞)	Same/Good など(ほめ言葉) /Question/Ok?/Next/1st(序数) /など
Adjective (形容詞)	Slow/Quickly など
Preposition (前置詞)	Like/at など

①動きにかかわる英語(Turn right/Copy/Spin leftなど)や人に何かを教えるための英語(Like this/Do you understand?/Do you have any question?/Let's play/The next/1st/2ndなど)に慣れ親しみ、聞いたり、話したりでき、②ALTに教える時の注意する点(言語にかかわるもの・Chantsの内容にかかわるもの・チームにかかわるもの)を知っていて、③ALTに「Oriチャンを教えよう!」と目的をもっている子ども(C0)に次の働き掛けをする。

## (2) 主張（展開）4Q（60分）

### このような子どもに（C0）

- 体育科において「言うこと一緒」の活動を経験している。
- 音楽科において拍子やリズムの特徴を捉える学習をしている。
- 特別活動（学級力）において友達と協力して活動する経験をしている。
- 動きにかかわる英語，人に教える英語に慣れ親しんでいる。
- ALTに教える時の注意する点（言語にかかわるもの・Chants の内容にかかわるもの・チームにかかわるもの）を知っている。
- 「Ori チャンを ALT に教える」という目的をもっている。

### このように働きかけると【働き掛け1】

- ※授業が始まるまでそれぞれが考えた Ori チャンのリハーサルをしている。
- ※いつも通りに英語であいさつをする。
- 「Ori チャン」を ALT に教える活動をさせる。
  - ・説明「みなさんは、それぞれの班で『言うこと一緒』のオリジナルを考えていましたね。今日は、それをショーン先生に教える時間です。準備は、いいですか」
  - ・指示「それでは、各班ごとにショーン先生にオリジナルバージョンを教えてください。時間は、各班3分です。順番は、事前に決めた順番で教えてください。待っている班は、他の班の様子を観ましょう」
  - ※順番を待っている班は、教えている班を観させたり、タブレット端末で動画を撮らせたりする。
  - ※時間は、状況に応じて3～5分以内で実際は変動させる。
- 「Ori チャン」を ALT に教えることができたか、またその理由を問う。
  - ・発問「さて、みなさん。ショーン先生に『Ori チャン』を教えることができましたか。また、それは何故ですか」
  - ・補助指示「自分のグループ以外でも気付いたところがあったら教えてください」
  - ※「できたか」と「何故か」の問いは、児童の反応に応じて、区切ったり、問い返しの中で問う。
  - ※教師は、教える注意点を基準に問題点やその理由を分類・整理しながら板書する。
  - ・指示「ショーン先生に『Ori チャン』教えられたと思う人は手を挙げてください」
  - ※学習課題「ショーン先生にどうしたら『Ori チャン』が教えられるか考えよう」

### このようになり（C1）

- 各班で考えた Ori チャンを ALT に教える。
  - ・Let's play dancing game. (手を叩きながら) Please, crap. Like this.
  - ・The same as I say. Repeat after me.
  - ・Right. Jump. Jump. Go down. Copy me.
  - ・Oh,no,no...
- 『Ori チャン』が ALT に上手く教えられていないことに気付く。
  - ・基本形「言うこと一緒」は、教えられたけど、Spin が上手くリズムに合わなくて教えられていない気がする。
  - ・▲班は、片足の動き（Right foot など）が上手く伝わっていなかったよ。
  - ・Reverse as I say が上手く言えなくて…。
  - ・説明が上手く伝わらなくて、誰も助けてくれなかった。
- ※ALT に上手く伝えられていないといったつぶやきもしくは、指示「教えられたと思う人は手を挙げてください」に手を挙げていない子どもを問いをもったと判断する。

### このように働きかけると【働き掛け2-①】

- コミュニケーションシートを基に、活動内容と伝え方に分けて改善策を考えさせる。
  - ・発問「では、みんなでどうしたら『Ori チャン』をショーン先生に伝えられるのか考えていきましょう。まず、英語にかかわるもの以外から考えてみましょう。何かよい案はありますか」
  - ※すぐに改善策がでない場合は、周囲の友達と話し合わせる。
  - ※話し合いが停滞し、子どもがコミュニケーションシートを活用していない場合。
  - ・補助指示「コミュニケーションシートを見てみましょう」
  - ・補助発問「次に英語にかかわるものを考えましょう。何か良い案はありますか」
  - ※すぐに改善策がでない場合は、周囲の友達と話し合わせる。

※話し合いが停滞し、子どもがコミュニケーションシートを活用していない場合。

・補助指示「コミュニケーションシートを見てみましょう」

※教師は、既に板書した問題点やその理由に対応させながら改善策を板書する。

### このようになり (C2-①)

- コミュニケーションシートを基に、活動内容と伝え方の改善策を考える。
  - ・リズムに合っていないということは、英語が長い、言い方が悪い。例えば2つの言葉をつなげて早く言ってみたらどうかな。
  - ・リズムについては、リズムボックスを使うのもいいかも。
  - ・ショーン先生が混乱しているのは、動きが難しすぎるからだよ。もう少し動きを簡単にしてみたらどうかな。
  - ・説明がバラバラになったって言ったけど、ぼくたちは役割を決めているよ。
  - ・英語が上手く伝わらなかったって言う時は、タブレットの翻訳アプリを使うといい。それか先生に一度確認してみたらどうかな。
  - ・英語が分からなくて困った時は、ジェスチャーと一緒に伝えるといいよ。それか、必要な簡単な単語だけでも覚えておくといい。それでも、不安なら翻訳アプリで検索した状態にして、ショーン先生に見せるのもありじゃない。

### このように働きかけると【働き掛け2-②】

- 自分たち活動を見つめ直させ、次への活動の準備を班でさせる。
  - ・指示「それでは、黒板の中で問題だと思った点を書いて次の活動の準備をしましょう」  
※以前に書いたものと今回書いたものを区別できるように記述させる。  
※もし、子どもが欲した場合は、コミュニケーションシートの新しいものを配る。  
※机間巡視をしながら、子どもがコミュニケーションシートの書き方などを質問したり、知りたい英語や発音を聞いてきた時には、教えたり支援する。
  - ・発問「それでは、みなさん。ショーン先生に『Ori チャン』を教えられそうですか。OKの場合は、手を挙げてください」  
※自信がない場合は、可能な限り時間を延長する。

### このようになり (C2-②)

- 自分たちの問題点について**各教科の資質・能力③**を発揮しながら改善し、次への準備をする。
  - ・ぼくたちの問題点は、ショーン先生が難しすぎてできなかったから、『Ori チャン』の動きを簡単に楽しくできるようにしよう。 資質・能力③ (体育科)
  - ・私たちは、明らかにリズムに乗れてない。だから、リズムボックスを使って、最初は少しテンポ遅めで教えていこう。 資質・能力③ (音楽科)
  - ・わたしたちは、みんなそれぞれの説明で精一杯。だから、困った時は気付いた人が直ぐにショーン先生に話しかけることを約束しよう。 資質・能力③ (特別活動)
  - ・ぼくたちは、みんな焦って説明がバラバラになった。だから、順番や役割をしっかりさせてやろう。 資質・能力③ (特別活動)
  - ・私たちは、明らかに発音が悪くてショーン先生に伝わっていない。だから、タブレット端末で発音を確認して伝える発音のために練習しよう。 資質・能力① (外国語活動)
  - ・ぼくたちは、言葉が足りなかった。だから不足していた英語をタブレット端末や先生などに確認をしてショーン先生に『Ori チャン』ルールと動きを教えられるようにしよう。 資質・能力① (外国語活動)
  - ・私たちは、言葉だけで伝えようとして上手く伝わらなかった。だから、ジェスチャーや目印などを置いてショーン先生に『Ori チャン』ルールと動きを教えられるようにしよう。 資質・能力① (外国語活動)
  - ・私たちは、英語の説明の順番が悪かったから、1stとか2ndとかを使って説明しよう。 資質・能力① (外国語活動)
- ※ .....のように『Ori チャン』をALTに教える改善策を見い出せていたら**各教科の資質・能力③**を発揮したと判断する。
- ※ .....のような資質・能力① (外国語活動)は、働き掛け3の実践場面での資質・能力③ (外国語活動・国語科) 発揮を前提とするため、ここでは検証しない。

### このように働きかけると【働き掛け3】

- 目的達成のために班で再度活動させる。

- ・指示「それでは、もう一度ショーン先生に『Ori チャン』を教えてください。教える班以外のみんなは、参加者として一緒にやってみよう。ただし、教える班のじゃまにならないようにしてくださいね」

※教える形式は、働き掛け1と同じ。

※教える順番が終わった班は、他の班の『Ori チャン』に参加させる。

※参加する子どもには、ショーン先生に教えるにあたって担当の班の思考の妨げにならないように配慮させる。

### このようになり (C3)

- 改善策を基にショーン先生に『Ori チャン』を教える。

A=ALT C=Child

C: Let's play dancing game!

A: OK!

C: (指を指して) 1st, look at us. (発音を意識する)

The next (2nd)... (新しい英語, もしくは順を意識して話している)

C: Look! Look! (動きを見せながら)

A: Oh, I see.

C: Do you understand? (新しい英語を加えている)

A: Yes. I undersatnd.

C: OK! Let's play.

A: OK!

※         のように、働き掛け2で資質・能力①(外国語活動)を発揮して考えた言語運用に関する改善策をALTのやりとりの中で使っている姿を資質・能力③(外国語活動・国語科)を発揮したと判断する。

### このように働き掛けると【働き掛け4】

- 活動結果とその様子についての感想を問う。

- ・発問「みなさん、一通り『Ori チャン』は教えられましたか。また、それはどこをどうしたから教えられた(教えられなかった)と思ったのですか」

※児童の反応に応じて、発問は区切ったり、問い返しの中で問う。

- ・説明「それでは、ショーン先生に今日の授業の感想を聞いてみよう」

- ・指示「最後に、今日の授業の振り返りをしましょう」

※ワークシートを配付する。

### このようになり (C4)

- 活動結果とその要因を自覚する。

- ・伝えられた。ぼくたちは、始めリズムが合わなかった。だから、リズムボックスを使って英語とリズムが合うように最初テンポを遅くしながら伝えたからだと思う。あと、英語の1 st とか 2 ndを使った。そしたら、順序よく説明できて、ショーン先生も分かりやすそうだった。

- ・教えられたと思う。私たちは、最初色々な動きを教えようとした。でも、自分たちもよく分からなくなって、説明が上手くいかなかった。だから、動きを少し減らして、その動きを説明する時に英語にジェスチャーを加えながら説明した。そしたら、ショーン先生は、OK!と言ってくれた。

## 7 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ③ 子どもは、発揮した資質・能力を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受け、        のように『Ori チャン』を教えられたかどうか、発言もしくは記述ができていのかで検証する。
- ②-1 働き掛け2を受け、        のように各教科の資質・能力③を発揮し、改善策を見い出せているかどうか記述で検証する。
- ②-2 働き掛け3を受け、        のような言語(外国語活動・国語科)の資質・能力③を発揮したかどうかパフォーマンスで検証する。
- ③ 働き掛け4を受け、各教科の資質能力③である        と言語(外国語活動・国語科)の資質・能力③である        を記述しているかどうかで自覚の検証をする。